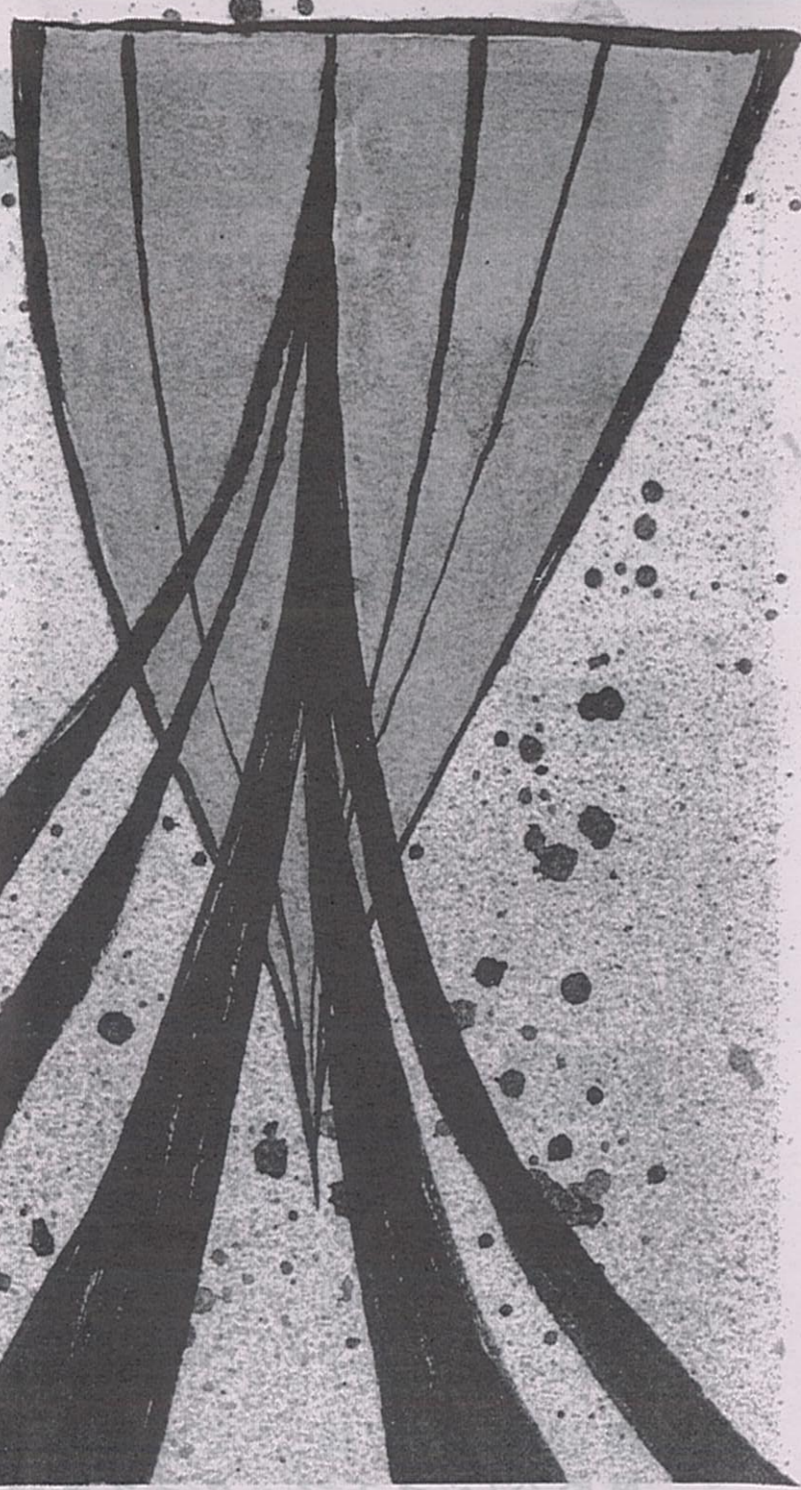


笠

会報

No.9 1998年

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会



笠会報

第九号
平成十年四月二十三日発行
発行・笠会
東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校 同総会
東京都立竹早高等学校内
編集・笠会編集委員会
印刷・髙ニット・印刷所
東京都文京区千駄木三丁目二十二番十一号
電話・〇三(三三二二)〇二一〇

表紙デザイン
笠原 由美 高校 八回生

編集委員

高木萬里子	小澤正昭	向井俊雄	山廣彰久	須藤宏	本間容子	室田翠	塚本隆史	平野宗信	駒見文隆	関掛明子	角田明子	池田信博	渡辺裕美	近藤裕美	山岸紀子
高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校	高校
三回生	三回生	四回生	七回生	八回生	八回生	八回生	八回生	九回生	九回生	十回生	十回生	十一回生	十二回生	十二回生	十五回生

池袋 池袋の山音羅創高次上
所 所
園 園
TEL: 027-323-2025
TEL: 027-323-2025

TEL: 027-323-2025
TEL: 027-323-2025

TEL: 027-323-2025
TEL: 027-323-2025

TEL: 027-323-2025
TEL: 027-323-2025

TEL: 027-323-2025
TEL: 027-323-2025

TEL: 027-323-2025
TEL: 027-323-2025

TEL: 027-323-2025
TEL: 027-323-2025

平成10年度 篁会総会 御案内

下記により篁会総会を開催致します。どうか、お誘い合わせの上ご出席下さい。

日時 平成10年6月6日(土)

受付開始:11時30分～

開 会:12時00分・・・講演会形式120名程度

懇 親 会:13時00分・・・立食(但し椅子90脚用意)

閉 会:15時00分

会場 東京都迎賓館(東京都庭園美術館内)
東京都港区白金台5-21-9 ☎03-3343-0210
(JR山手線 目黒駅下車 徒歩7分)

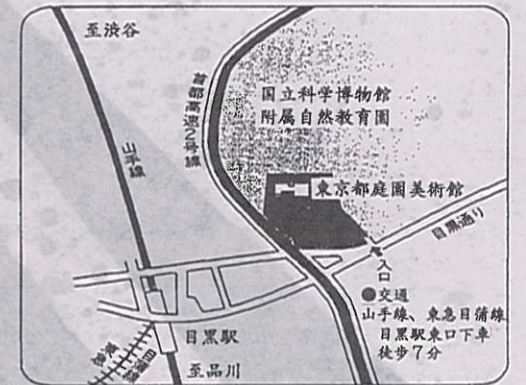
1階 会議室 総 会
2階 レセプションホール 懇親会

会費 7000円(学生2000円)
ご出席の場合のみ同封の
葉書にて5月20日までに
ご返事をお願い致します。

今回幹事:高校 8回生(S31年卒)
:高校29回生(S52年卒)
:高校49回生(H9年卒)

次回幹事:高校 9回生(S32年卒)
:高校30回生(S53年卒)
:高校50回生(H10年卒)

※懇親会終了後 ご出席の方には庭園美術館(旧朝香宮邸)
展覧会(ベネチア・ガラス展開催初日)観賞の入場券(無料)を
お配りします。



この頃想う事

篁会会長 城戸崎 愛



昨年はおと
一年でございま
した。皆様も吃
度、この目まぐ
るしく殺伐とし

た世相に、啞然とし複雑な想いで過してらっしゃる事と存じます。誰もが「生」と「死」について真剣に考えねばならない時期に来ているのではないのでしょうか。二十一世紀を前にして経済大国となった日本は完全に行き詰まり進路を見出せずにいるようです。

先日、ふとテレビの番組の中で、現代っ子(高校生?)のよんだ一句を耳にして何とも胸をしめつけられ涙してしまいました。「人は何故、ここまでむごくなれるのか、病んだ心の起した悲劇」若者にこの様な深刻な悲しい歌をよませた社会を、ただ私達はどうかしたらよいのか...と思案にくれていてよいのでしょうか!

私は七十有余年、生きてきて、健全に物事を考え、判断出来る精神を持つ人間に、人の痛みを解る人間を育てられなかった、後悔しています。反省しています。責任を感じています。

「氣を病む」という、殆どの人が大なり小なり、かかってしまっている現代病(ストレス)に私は「食生活」を通して挑戦していかねばと思っています。母校竹早高校も、篁会も力を合せて昨秋から百周年に向けて「百周年実行委員会」を発足し、いよいよ第一歩をふみ出しました。同窓会も先ずは記念誌編集の為の「資料収集」でお手伝い出来たらと行動に移りました。皆様も

お一人お一人が実行委員になられたおつもりでお友達と旧交をあたため乍ら何卒、御協力をお願い申し上げます。私も去る九月、関西篁会総会(於京都ホテルグランヴィア)に、続いて十月、湘南篁会総会(於葉山、音羽楼)に出席させて頂き、資料収集をお願いして参りました。大先輩の方々と膝を交えていろいろな話を伺う事が出来、その凛とした姿勢に心うたれ、又後輩の方達からも忌憚のない御意見を伺い立派な活躍ぶりを肌で感じられ清らかな明るい集いに感動して帰って来ました。母校の百年の歩み、歴史の一端をふれただけで今更の様に改めて竹早高校(府立第二高女)の素晴らしさを知る機会に恵まれた事感謝致しております。皆様も百周年記念行事に何卒御協力下さいますよう、御願い申し上げます。理事達も一丸となって懸命に頑張っております。

二十一世紀へ羽ばたく 竹早高校への期待

竹早高等学校長 筒井 利行



早いもので、竹早高校に着任して四年が終わろうとしています。竹早高校の教職員、生徒、

保護者、そして同窓生(篁会)の皆さんから温かく迎えられ緊張して校長としての第一歩を踏み出したことが昨日のように想起されます。二期工事のスタートに当たって住民説明会が待ち構えておりました。都財務局、都教委施設部等の方々の方々の骨折りで難局を乗り越

え、予定した平成七年度末には竣工し、平成八年十一月に落成記念式典を行うことができました。篁会の皆様方から並々ならぬご支援をいただきましたことに対し厚くお礼申し上げます。私は平成九年度で定年を迎え第二の人生への歩を進めることになりました。教職最後の仕事を竹早高校で全うすることができましたことは、これからの私の人生にとってかけがえのない経験として生きつづけるものと思います。

平成九年九月に都教育委員会は、社会の進展と成熟化、生徒の能力、適性進路希望等の多様化、少子化による長期的生徒減少期などを背景として、多様で柔軟な高校教育の展開を目指して、都立高校改革推進計画を策定し、発表しました。この計画は平成初年度として平成十八年までの十年間に至るものです。そして、都立高校全体の今後の展望と改革の方向を明らかにしており、各学校は、その展望と方向に沿って自らの課題に主体的に取り組む必要があります。多様な生徒の学習希望や進路希望に応えることができるよう、指導内容や方法の改善など弾力的な教育課程の編成、実施を図るとともに、特色のある教育活動を進めていくことが一層求められているものと受けとめています。地域・社会の教育力の活用、生涯学習の観点を視野に入れた教育活動など学校の活性化と生徒の学習活動の充実が重要であり、生徒に開かれた学校づくりに取り組みすることも必要と考えています。二十一世紀へ向かって竹早高校が大きく飛翔していくことができますよう、今後とも篁会の皆様方のご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

旧制府立

第二高女の思い出

小栗 たけ子

(高女三十七回)

私たちが憧れの府立第二高等女学校に入学したのは昭和七年四月のことでした。前年勃発した満州事変によって満州国が建国し、引き続き上海事変が始まり、国内では5・15事件など起きまじり、戦争はまだ一般国民からは遠く、私たち女学生の毎日はずべて珍しく、楽しいことばかりでした。

明治三十三年創立の木造二階建ての校舎はその年から改築が始まったため控室のなくなった私たちは、一時間毎に全財産を持って教室から教室へと移動しなければなりませんでしたが、スポーツに積極的な校風のお陰で、伝統あるテニスや、バレーや、バスケットの練習に、元氣一杯の私たちは、毎日夕方五時にカチ(週番の五年生が校内を廻って居残りを追出す拍子木)が鳴るまで熱中することができました。

学芸会や音楽会には当時一流の専門家をお招きし、校外教授や登山では田淵先生から自然に親しむ喜びを教えられ、お若き日の小倉遊亀先生には日本画とその鑑賞法を教えて頂きました。

その他の学業を指導された先生方には個性的な方が多く、その授業は当時の女子校としては厳しいもので、英語の一色先生の授業などは、優雅なお人柄に似合わず恐怖そのものでしたが、半世紀後ポストンに滞在中、即席のアメリカンとはつきに出てこないでも、一色先生に「ごいて頂いたイングリッシュが口について出て来た時には、つくづくこの年代の教育の大切さを思い、先生方のご薫陶に感謝した次第です。」

当時の女子教育は「良妻賢母型」の教育が主でしたから、必ずしも上級学校に行く必要はなかったもので、多くの人は音楽に、読書に、観劇に、自由に余暇を楽しむことができました。

それでも定期試験の時は、みんな真剣に勉強しました。これは、成績を競い合うというより、教えられた事はマスターしなければ気が済まないという各自の強い要請があったからでしょう。この完璧主義と負けじ魂は、どうやら「竹早魂」とも言うべき竹早の校風ではないかと思われませんが、これは人間にとって大切な、責任感と自立の精神を培う貴重な校風だと思います。

五年生の時、新校舎が完成しましたが、翌年には日中戦争が始まり、やがて卒業して適齢期を迎えた私たちも、配偶者や婚約者たちを次々に召集され更に太平洋戦争に巻き込まれ、内地も空襲が激しくなると、卒業生の少なからぬ人たちが、在学当時には思いも寄らなかった過酷な人生を強いられることになりましたが、こうした逆境も、「竹早魂」に支えられて、皆様それぞれの立場で敢然と生きて来られました。私も戦没者の妻として戦中戦後を生きた一人ですが、竹早でご薫陶を受けた者として、どうしても自分の目で見たいあの戦争の記録を残さなければと、戦後五十年を期に「愛別離苦」という本にまとめました。これも「竹早魂」に衝き動かされたことでしょう。

府立第二高女は、戦後、男女共学の都立竹早高校となり、一昨年は新校舎が竣工し、まもなく創立百周年を迎えます。そして二十一世紀は竹早高校ご出身の方々の活躍の時代です。どうぞこの伝統ある校風を発揮されて、人類の幸せと世界の平和のために、お尽くし下さるよう祈念申し上げます。

私の高校時代

山口 仲美 (旧姓橋本)

(昭和三十七年卒)
現・埼玉大学教授



「読売新聞にあなたのことが出ていたので、思い出しました。会報に是非近況を書いてください。」

会報の編集委員、角掛隆さんからの電話でした。角掛さんは、なおも続けました。

「高校の古文の先生がハンサムだったのが国語学者への道を歩むきっかけ」って新聞に書いてありましたけど、あれは国広先生のことですね。そうなんです。高校時代に国広功先生に古典を教えていただいたことが、私の進路決定に大きな影響を与えたと思えるのです。私の高校時代は、家庭のことや将来のことでも悩み、内にこもって、笑顔とはほど遠い沈鬱な表情をしていた気がします。それでも、国広先生の授業だけはしっかりと受けとめていました。

高校に入学した頃の頃でした。国広先生が旧校舎の薄暗い教室に入っていた時、私は、五月人形のように色白で整った容姿の先生に息を飲んだのでした。大きく明瞭な声にも迫力がありました。

「いいかい、古典文法はまず活用を覚えなくっちゃ。形容詞のク活用はね、く・く・し・き・けれ・トン、から・かり・トン・かる・トン・かれ」っ

お便り

「トーン・めり・めり・める・めれ・トーン」だよ。床が壊れるような活用なんだ。」

私は、先生の口調を模倣して暗記しました。それから、私は憧れの先生になんとか認められたいと思い、古典の勉強に精を出しました。先生がテストをするとおっしゃった「徒然草」の本文を、どこから出されても良いように私は全文を写し、最初の文から最後の文までを丁寧に品詞分解していったりしました。その作業が楽しくて、不如意な日常を忘れ去るほどでした。でも、数学は大の苦手で微分も積分も全く理解することなく、今日に至っています。

大学は、国文科にしました。すっかり古典好きになっていましたので、「源氏物語」「今昔物語集」などの平安文学作品を読み続け、現代に通じる言葉や表現の魅力を訴える本も数冊書きました。

大学教師の生活も、今年で二十八年目になります。勤め先の大学もいくつかわわって、今は埼玉大学の学生を相手に最近出版した「山口仲美の言葉の探検」(小学館)などという、いささか赤面してしまうようなタイトルの本をネタに、国広先生ばりの授業をしています。と本人だけが思っています。



竹早高校から宝塚へ

大樹 稔

皆様、初めまして。私は、平成三年に竹早高校を卒業いたしました。山崎薫と申します。卒業後、宝塚歌劇団に入団し、月組に配属され、大好きな舞台の仕事をして充実しております。

宝塚は、今年から一組増え、花組、月組、雪組、星組、宙組(そらぐみ)の五組で成り立っています。劇団員はすべて女性で、男役と女役に分かれて公演しております。公演場所は、宝塚大劇場、東京宝塚劇場、そして小さな公演になりますと地方公演や日本青年館や宝塚バウホールなどでも公演されます。東京宝塚劇場は昨年で長い歴史にピリオドを打ち二〇〇一年に新しい劇場が完成する予定です。それまでは有楽町駅前前の仮設劇場で三年間公演することになっております。

ところで、私が宝塚に出会ったのは、高校二年の冬、十一月のことでした。その頃、高校の授業でフランス革命の勉強をしていました。クラスでは、「ベルサイユのばら」というマンガが流行り始めていました。私も何の気なしに読んでみると、知らず知らずの間にはまってしまったのです。一夜で、全てを涙、涙で、読み終えてしまいました。

そんなある日、妹に「宝塚っていうところよ、ベルサイユのばら、やってほしいよ。」と言われ、ぜひ観たいと思いに相談しました。母は喜んでチケットを買って行ってくれました。しかし、宝塚のチケットがそんなに簡単に手に入るわけはありません。全て完売で一枚も無いのです。母はそれでも朝一番の電車で劇場に行き、立ち見席を手に入れてくれました。その日、



母と妹と私の三人は、初めて、宝塚の舞台を観たのです。十一月二十五日のことでした。私の記念すべき日です。

その日をきっかけに、どうしても宝塚の舞台に立ちたくなってしまった私は、両親に相談をしました。母は賛成してくれたのですが、父が大反対で、父を納得させる為に、学校の成績は下げないで、バレエと声楽のお稽古に通いました。ある日、そんな私の努力を認めてくれた父が、宝塚受験を許してくれたのです。宝塚受験の年齢制限は十五才から十八才までで、私にとって最後のチャンスだったので、西の東大といわれるほどの倍率の宝塚ですから、私の努力は並ではありませんでした。そして念願の宝塚に合格した時の喜びは、言葉に出来ませんでした。

それから二年間音楽学校で勉強し、初舞台を迎えました。芸名は、大樹稔(たいじゅまき)、宝塚の大きな樹になれる様にと考えました。あれから五年がたちました。高校時代の私は、剣道部に入り、毎日剣道ばかりしていた気がしますが、同級生も向かって大きくなるうと思いません。これからの宝塚を、そして大樹稔をぜひ、観にいらしてください。そして何かありましたらお便りください。お待ちしております。(高校四十三回)

談話室

関西簞会よりお便り

会長 河合 道子

簞会の皆様、お元気でしょうか。激動の時代を生き抜いている、と実感する昨今です。然しその中であるからこそ一段と輝く友情の輪、関西簞会に、本部皆様の御支援が更に増して参りますのは心より有難く、会を代表して厚く御禮を申し上げます。

昨年は九月二十七日話題の新京都駅ビル日グラウンヴィアに於て総会を開きました。東京方面から城戸崎会長他多数お越し下さり、五十四名の出席を得ました。当番高二十一回生の熱心な準備万端に加え、新駅の大混雑を予想した幹事多数が、簞会のプラカードを掲げて所要所に立ち、気配りの結果、万事滞り無く和気あいあいの内に会を終える事が出来ました。久野貞子先生の神経内科の講演も大好評で、老齡社会の実問題に対して、一層の考慮を深める事が出来ました。

城戸崎会長をはじめ、御出席下さいました簞会の皆様、本当に有り難うございました。

本年度は場所を大阪に移して、新装成った大阪城を正面に眺める、KKR・Hを予定して居ります。

御承知の様に、大阪城は秀吉が築き、現在のなにわの繁栄の基となったのですが、徳川幕府も大變氣を使い、商業流通の保護に力を注ぎました。然し、現在もなにわっ子達は、矢張り太閤さんびいきが強く、江戸への対抗意識もあって「徳川家康をけなす会」などと云う大變ユーモラスな集りがある位です。自由闊達な氣風と人情の厚い大阪の雰圍氣は誠に独自の物があります。

勸簞会館元理事長 吉澤 とよ

不順な氣候でございますが皆様いかがお過ごしでしょうか。勸簞会館の後始末につきましては、元理事長高女二十一回湯河秋子様が明治生れの方々の代表としての御指図を基本として、昨年の会報で詳しくお知らせいたしました。勿論これをきめたのは吉澤が必ず役員の方一名あるいは二名と一緒に都庁に行き、こちらの考えを述べた後、検討され指示されたものです。

①母校が希望された掲示板の寄付 (簞会より八十四万八千九百八十円、簞会館より二百万円)

②勸竹早会へ四百万円寄付 (簞会館役員会で金額決定)

③母校創立百周年の記念誌完成時に、その代金二千円 (都庁がきめた上限) を公正証書を作成して保管

④八千三百万円を公益信託にして、平成十年より毎年竹早高校 (一校) に二百七十万円程度、東京都立養護学校 (全体数約五十校) の内四校宛二百八十万円程度、品物で支給して約十三年で全額支給完了 (竹早一校で二百七十万円、養護学校四校に二百八十万円、これも公益性のための限度でした)

⑤毎年都庁に提出していた会計報告が最少限であったと認められ、解散会を催して役員に慰労として記念品を贈るよう指示され、一月二十三日若深会館で解散会を行いました。

⑥③項の公正証書作成と⑤項の解散会等の費用、勸解散の為の多くの書類を作成した司法書士への報酬、官報公示三回の費用等全部清算して残金があれば公益信託にくり入れる。右のように勸簞会館は三月で完全消滅、長い間簞会館につくされた深澤

太閤さんの昔を偲びながらの総会も一興と存じます。是非なにわの秋をお楽しみがてら、いらして下さいます様、お待ち申し上げます。終りに会員皆様方の御健勝をお祈り致します。

関西簞会総会御案内
時・平成十年十月十一日 (日)
午前十一時午後三時

所・KKR・H・OSAKA
〒五四〇一〇〇七

大阪市中央区馬場町二一二十四
〇六一九四二一一二二二

講演・協田 修氏
(大阪大学名誉教授)

「秀吉と大阪城」
会費・六千円 (当日)

湘南簞会

会長 松本 紀子

長年湘南簞会にお力添えいただいた神谷美喜子会長のご指名により不肖私がお長を務める事となりました。よろしくお願い致します。

平成九年の総会は昨年十月二十四日音羽楼 (葉山ホテル音羽の森迎賓館) において三十七名のご参加を得、東京より城戸崎 愛会長のご出席は会場に大輪の花を添えて下さった感があり、一同感激の内にお迎え致しました。

先ず、本会発展のためにつくされた物語者に黙禱を捧げ議事に移りました。親睦会は、神谷前会長の乾杯に始まり大先輩の小崎絢子様 (高女三十回) 橋本松子様 (高女三十五回) より本会の歴史等貴重なお話を頂き、又金森トシエ様 (高女四十三回) から県立かながわ女性センター館長時代のお話と、

てる様 (高女十四) は昨年一月七日に亡くなりましたので、この一月六日、水原康子様 (高女四十五) と私でおまわりしてまいりました。そして一月二十二日 (解散会前日) 鶴見持持寺の湯河様にも墓前報告をし、何もかも終りました。

八ヶ岳寮の存在を生かす

勸竹早会理事長 岩田 隆子

昨年百一歳で亡くなられた大先輩の深沢てる様に、二年程前お目にかかりました。八ヶ岳寮の誕生の当時の事を鮮明に覚えていらして、なつかしうに、笑いながら思い出話をしていたたき八ヶ岳寮のアルバムをご覧になってこんなきれいな状態になっているとは知らなかったと、大變喜ばれました。

翌日「わたしは筆まめのよ」のお言葉どおり、戴いたお手紙には、財団設立当初の理念が明確でなかったことが八ヶ岳寮の運営を難しくしたと思われ、次世代に受け継ぐ難しさを心配して下さり、交通費の足しに心配りをいただきました。

心よりご冥福をお祈りいたします。また、先日、前理事長 (澤登千明) の十三回忌をいたしました。戦時中病床に伏し、戦場に行かなかった彼は、「いい奴は、みんな戦死してしまつた。次代を担う子供達を育てるのが残された者の役目だ」と事ある毎に申し、戦争体験から、変わらない人生観は、自然の摂理の中に学ぶ事が大きいと思つておりましたから、戦時中報告団に寄付された上條農園の売却金の最も有効な生かし方は、竹早高校六十周年記念事業として林間施設を作ることだった

同期の城戸崎会長と在校時代の武勇伝を漫才風?にご披露下さり、さすが大物先輩と大拍手でした。村上英子様 (高八回) からはブータンでの登山にまつわるお話、田中順子様 (高十二回) からは著書「イメージで読む源氏物語」の出版についてのご心情が語られました。

自己紹介の後は、校歌やなつかしい歌の数々を音羽の森に響かせました。会場の音羽楼は、広いお庭が眺められる古風な日本家屋で、各テーブルに香り高いフランス料理が次々と運ばれ、心地よい雰圍氣の中で楽しい時が流れました。本会も一時は高校卒の方のご出席が少なく心配しておりましたが、前会長のご努力によりお若い方々との交流が実り、当日の幹事も弥永さん他高校三回の方々の周到な準備で滞りなく和やかに進行致しました。

本年の総会は六月三十日、五十周年を記念し、同窓会婦人活動の基礎に力をつくされ、ご自分の病院を提供なさった秋葉鶴子様 (高女十七回) を始め明治の氣骨ある大先輩を偲び、思い出の鎌倉婦人子供会館で行う予定でございます。皆様のお出ましをお待ちしております。

話は遡りますが、平成九年度簞会総会が六月八日母校で行われ私は実に半世紀ぶりに出席し、おなつかしい先輩後輩の皆様と母校の発展を心から喜び合いました。行きかう高校生のルーズソックス、ミニスカート、一般には見慣れた自然の光景ではありますが、思わず目を凝らし首を傾げてしまいました。この会報が届く頃には、どんなものが流行しているのでしょうか。

一世紀近く変遷を見つめて何かもの言いたげなヒマラヤ杉が印象的でした。としたのも領けます。運営を先生方に一任、しかしそれが活用されたのは十数年に過ぎず、宝の持ち腐れになってしまったのは、残念なことでした。荒れるにまかせて、老朽化した八ヶ岳寮は、自殺、校内暴力、いじめが報道された十数年前、自分の死期を察し、最後の力を振り絞り改修工事をいたしました。人知れず咲く梢の花をわたる風に、木陰の見落としそうな小さい花に降り注ぐ一条の光に、悠然とした山の姿に、心あるなら何かを感じる筈だと、自由な心になったとき、はじめて裸の自分と向い合う事ができると考え、自然の道場を夢見ていたようです。寮の建物の手入れがされれば、皆が活用し、先生や、友達と膝を交え人生を語り合う機会が持て、友情も芽生えるだろうと、死の間際まで申しておりました。

成り行きから、私達が (財) 竹早会八ヶ岳寮をお預かりしてから、十二年たったことになりました。悲惨な事件が毎日のように報道され心が痛みます。今、ここに生きる私達がする事、出来る事はなんでしょう! 共有財産としての八ヶ岳寮という場を、見直して下さい。

〔報告〕平成九年六月、勸簞会館の残余財産より四百万円をご寄付頂きました。感謝と共にここに報告致します。

賛助会員募集中

竹早会の活動に賛同下さる方。八ヶ岳寮を愛する方ならどなたでも入会できます。

年会費 一口三千円
年四回ニュース発行
郵便局振替口座 (財) 竹早会
〇〇一六〇一五一九七二二二

お問い合わせ先
(財) 竹早会事務局
〒三九四三三 二四二五
文京区千石二二三四四一一二〇一

倫敦塔

三瓶 達司

私が竹早に勧めたのは、昭和二十七年（一九五二年）から三十六年まで、九年に及ぶ。五十余年の教員生活の中で最も長い。

何が私をして、かくも長年の間、あの倫敦塔——私は一度も外遊したことがないから、実物は知らないし、映画写真で見た記憶も乏しい。ただ、あの古風な暗い狭い正面入口から入った感じから、私一人が勝手に名付けた名称である。今はすっかり建て直されたのだろうが、その学校を私は見えていない。私の「竹早」は倫敦塔でいいのである。——に通わしめたのであるか。

一言で言えば、私の戦後処理の期間だったのである。友人の厚誼によって、本郷は東大赤門前の横町に入った焼跡に、バラックを建てて、疎開していた父（母は戦争を知らずに他界した）や妻子と、瓦も天井もないバラックにともかく落ち着いたのがその三年前。そこから裏通りを歩いて三、四十分、都電を使えば二、三十分という学校は、まことに都合良く、しかもそこには富山時代の畏友もいた。だから私は、勧められた新制大学の口を二つもお断りした。漸く手の中にこの壺中の矢を家族と共に確固たるものにしたかったのである。

だが竹早の生活は、安閑としてそんな夢を見ていたことを許さなかった。大変晩生ではあるが、私の中の幼稚なる世間智は、すでに大人になっている教職員にとっては甚だ青臭いものだったろう。倫敦塔はやっぱり暗かった。その中の一筋の光、それは、そういう青臭い書生っぽく理論に共感する生徒達との交流だった。文学散歩をしたり、幸田文さんを訪れたり、鎌倉円覚寺に

夏休みに泊りがけで座禅を組みに行った数人の女生徒もいた。女性には正座でいいんだよと言ったのに「私たちは結跏でやりました」と言う。「美少女」たちはさぞかし若い坊主を悩ませたことだろう。

漢文を教えることを若い教師はあまり好まないもので、私が多くやったが、「牡丹灯籠」の原本「牡丹灯籠記」、「邯鄲」の原典「枕中記」などを放課後、数名の生徒と読んだことも忘れ難い。そのガリ版のテキストは五十年後の今日も私の篋底にある。放送部の顧問をしていた時、何かの部門で優勝したのもその頃の事である。

要するに、生徒と雑学と酒とが、倫敦塔生活の主軸であった。酒との戦いは、緑内障悪化と宣告された今日なお続いているが、これは竹早時代に限ったことではない。優に一冊の本を成すだろうが「世に酒飲みは種は尽きせず」売れそうもないから止めていた。私の出版した本のうちで、一番売れたのは、いわゆる「学参」、学習参考書と古典の副読本である。私の好きなのは近代文学だが恩師の口添えがあって古典へも手を伸ばした。私は不勉強家ではなかったから、古典の有名箇所は常識として知っている。生じっかな専門家はあまり有名な所は気恥ずかしくて敬遠する。その隙を突いたわけだ。しかし私なりに十分調べたものだ。いかげんなことは私にはできない。この雑学が校長業を放り出した時、予備校の講師として一家の口を糊し、専門書のいくつかを世に問うことを可能にしたのだから、正に「因果は巡る小車の」というところである。一昨年私は「堅香子の花」という自伝的な一書をものした。そのきっかけは、その年の同窓会の幹事をやった高校六期の者どもが、「先生の書く本は専門書



大塚 朝治

そのとき私は裏の部屋に坐っており、玩具の戦車で遊んでいた。単に眠っているだけで何も意識のなかった状態からふと目が覚めて、自分が何かをしているという意識をこのとき初めて持ったのである。赤ん坊のように単に本能的に行動するのではなく、多かれ少なかれ自分で何かをしようとする目的意識をもって行動するのが人間である以上、私の人生もこの瞬間から出発したのである。それから六十年余り、東京都の教員として働けるのもあと一年になった。その後何かをして、ボケて、再び赤ん坊状態になり、最後に二酸化炭素と水になり、そのあとはわからな

い。小学三年の或る日、休み時間に朝礼台の上で押しくら饅頭をしていた。突然フワッと空中に浮んだ。気が付いたときは頭から血を流して泣いていた。数針か縫って、担任の先生におぶわられて帰宅した。先生におぶわられたのはこのとき限りだが、何か嬉しい気分だった。後年教員になってから、生徒をおぶうような事態になったことはなく、幸せなことである。

自分の怪我については、まだある。高三の折、体育の授業でボールを思い切り蹴った。自分ではサッカーボールを蹴ったつもりだったが、実際は半径六千四百センチの大きなボールすなわち地球を蹴ってしまったのである。当然私は反作用でふっ飛び、足を骨折、一ヵ月休んだ。このとき、或る夜病院の隣のベッドに自殺未遂の人が収容された。治療の結果元気になったその人が話してくれたのは「死ぬのは眠ると同じことである」ということだった。空襲で逃げたり、線路際の轢死体を見たり、死体の解剖を見学したりしたこ

ともあり、自分で考えたり本を読んだりしたが、当事者の言葉に単純に納得してしまいがち、その後はあまり考えないようになった。それよりも、先ずは大学に入るう、生きていくうちにやれることをやろう、と割り切ってしまった。昭和二十一年に中学に入学。担任発表のとき私の担任の名が発表されると会場は大笑い。私の担任は学校で最も怖い先生だった。そして五年間その先生のクラスであった。遅刻をしないこと、授業の受け方、校内での行動、日常生活の常識まで折に触れて細かく且つ厳しく指導された。怖かったが、多くの卒業生から慕われていた。そしていつも云われたのは、お前達は紳士の卵である。残念ながら、私の場合卵は孵らなかったが、

中学の頃も化学の授業はあった。しかし敗戦直後のため、施設・器具・薬品とも無く、すべて講義であった。身の回りにない薬品の名前や性質を聞かされても興味のわく筈もなく、何とつまらない科目なんだろうと思っていた。高校での科目選択でもそう思っており、大学は理系だが、化学は敬遠する心算だった。

私の小学校は都心（旧東京市麹町区）にあったが、担任の先生が理系であった故か、理科は楽しかった。カナリヤの産卵から巣立ちまでの絵日記をつけたり、蚕の卵を貰って繭をつくらせたりした記憶がある。また、北里柴三郎や野口英世の伝記を読み感動した。従って、文系へ進むことは考えたことではなく、医者や数学者などを考えていた。それが化学部に入ってしまったのである。それは部員が実験しているところを見、入部すれば自分も実験できると云われたからである。実験してみると、泡が出たり色が変わるだけでも楽しく、何かが作られるといっぱしの

ばかりで読めやしない、もっと一般的なものを書いたら」という要望に応えて書いたものである。しかし、「ある青春の軌跡」という傍題を付けたため、どうしても御年二十三才で初めて家を離れて赴任した山形県庄内の女学校時代のことが多く出てしまった。この一文は、その拾遺の一端ともいべきか。それにしてもあの本の時、どうして「倫敦塔」という標題が浮かばなかったのかなあ。

今年同窓会の幹事をやるのは、今年還暦を迎える八期の連中である。私の頭の中では、授業で接し始めた五期の連中から竹早を去るまでの各学年の生徒が混然としていて、上に述べた事々も、どの学年であるか判然としない。それでいいのだと思う。馬齢八十四歳を迎えた今日、竹早時代全体が、その人生の一駒なのだから。しかし縁あって担任となり、その学年の者が同窓会の幹事役というところで、一文を求めて来たとするれば、教職員・同窓生諸氏の一人でも多くの出席を願って、些か宣伝の辞を連ねるのも、これまた人情と申すものであろう。八期の者共は、古典語の「うるせき」者もいるが、気はいい奴だし、地味な努力家も少なくない。まあ何とかやると思うから沢山出席してやって下さい。私も生あらば勿論出る。現在、二区で月一回ずつ短歌と古典を勉強している。「堅香子乙女」たちも、少し古びて参加している。大きな論文は無理だが、研究余滴のようなものは適宜活字にして頂いても居る。吾妹子の足腰が不自由なので、スパーへの買い出しには、私が自転車を走らせ、米屋・八百屋・菓子屋の主人とも仲好くなった。有難き極みの今日である。

化学者になった気分になり、化学が大好きになってしまいがち、授業も少しは分るようになって来た。文化祭のときは先輩が、実験・発表の内容について質問し、答えられないと必死に調べることになり、神田の本屋街に立読みに行ったこともあった。当時は有機合成化学が発達する時期であり、化学こそ我が仕事なり、というわけで大学は化学科に行くことに決めたのである。今考えるとかなりお手軽に決めた感があり、就職時にもう後悔をしている。鉄道が趣味で、国鉄入社を夢見たが、鉄道には化学屋の出番は無さそう諦めることになった。

今回同窓会誌の原稿依頼を受け、自分の小さい頃を思い起こしたところ、竹早高校での生徒諸君への接し方は、自分が教わったことをそのまま受け売りしたに過ぎないと痛感した。授業は休まず遅れず静かに聞いてノートをとる、実験を多く行い、詳しく調べたレポートを出すなど。私の授業を受けた人で教員になっている人は、私と似た授業をしているのであろうか。私を反面教師として全く別のタイプの授業をしているのであろうか。

私が高校生であった頃と比べると、現在は非常に変わっている。殆ど全員が高校教育を受けているし、テレビ、雑誌、インターネットなど情報源は多い。しかし、学校が勉強の場であることは変わらない。勉強というのは、それを実行し内容を身につけるには強い意志と相当の努力を要するものであることも変わらない。そう思うが故、これからも教壇に立つ限りは、基本的には今迄通りに頑張っていく心算である。



坂本 康子 (旧姓鈴木)
高校八回 昭和三十一年卒



「熊本って熊が出るんでしょ、気をつけてネ」と、竹早時代の友人たちに送られ引越して来てから二十五年がすぎました。まだ熊には出会っていませんが、しんとした人影一つないヒマラヤ杉の並木道に遭遇した時は感動しました。竹早のヒマラヤ杉は、今年も沢山の新人を迎えたことでしょう。私の竹早のヒマラヤ杉の下には、セーラー服姿の友や、詰め襟を着て、破れ帽をかぶり大股で闊歩する若き日の緒形拳さんの姿があります。竹早時代の友と行った尾瀬沼や、奥秩父の山々のことが忘れられず、熊本に来て「自然を愛する会」という登山の同好会に入会しました。祖母・阿蘇・高千穂・屋久島の山等を自然探訪に行っています。

早春に雪の中に金色に輝いている福寿草と出会えます。スズラン・ミヤマキリシマ・シヤクナゲ・マツムシ草等の群生を見ることが出来ます。冬のはじめすぎが全山銀色に波打っているものなかなかのものです。ここでは、季節の移り変りを感じることになるのです。この原稿を書いている今日の新聞に夏目漱石来熊本百年記念第一回草枕文学賞受賞の作品と共に、次回募集要項も掲載されていましたので、同窓生の為に附記しておきます。

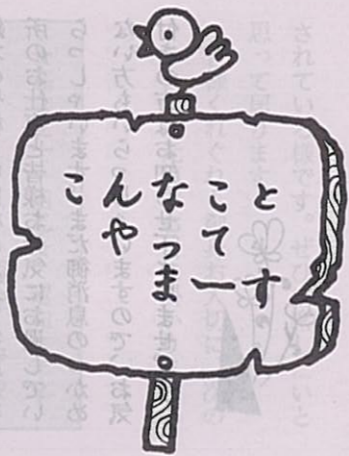
次回募集は7月から
問い合わせは千八六二二八五七〇
熊本市水前寺六の二八の二、県文化企画課内、県「草枕文学賞」実行委員会
☎〇九六(三二八)八七三二

漱石は、明治三十九年、五高教授として来熊、イギリスに留学する迄の四年三月月熊本に滞在しました。この間に、鏡子夫人と結婚し、長女筆子さんも誕生しています。引越し魔と云われながら、六回転居し、現在三軒の家が保存されています。平成七年が、漱石来熊百年にあたり、文学賞や、俳句賞が設けられ、草枕ハイキングコースが整備されました。

ハイキングコースは、小説「草枕」の中に出てくる、峠の茶屋を通り、有明海側の小天温泉迄、漱石が歩いた約十キロの道のりです。

朝、市内を出発すると、昼頃には、「草枕」に出てくる那美さんの居た那古井の湯で汗を流し、バスで帰宅することも出来ます。

峠の茶屋で、だご汁と高菜飯の昼食をとり、山路を左の方へ迂回すると、宮本武蔵が五輪の書を書いた洞窟と苔むした五百羅漢さんに出会えます。書の研究会で行く阿蘇の宿には、漱



☆高女二十二回☆ 大正十一年卒
向坂 ゆき

母校竹早の新しい姿を見たいもの願っていたその日は来ました。昨平成九年六月「新校舎落成披露」とあって算会総会がここで開かれたのです。

正にそのみが昔ながらの場所に立つ校門を見ると、完全に近代的大建築に変貌を遂げた立派な校舎に息をのみました。周囲の街並みも全く様変わりして、大正時代のまなびやの面影は知るに由なく青春五年間の思い出の片鱗だにとどめません。

恩師は御一方もこの世に在りませぬ。時在校の上級・下級生のお顔も全く御見受け出来ません。

にも拘らず、会場の大会議室・懇親会の地下二階食堂を埋めた同窓の皆様、なんとあたたかくなつかしいこと！「母校」という言葉が実感を以て迫り深く心に沁みるのです。

竹早 エコー
昨年稲生暢・井沢悦子・日野勝子

☆高女二十五回☆ 大正十四年卒
高木 桂子 (旧吉田)

の御三方が次々逝ってしまわれ遺されたのはついに七名、しかもあの御元氣いっばいクラスのスポーツスマンであられた淵脇様がなごの御入院、また御老体をあれほどの御活動、昨年同窓会にも御一緒できた峯島様もおみ足お弱りとお便り、そして私はアタマもカラダもよろりより、往來を行けば前かがみのちどり足となる。九三年の人生のはてのよっぱらいであります。

けれども、名実共にめざましい発展をつづけつつ近く創立百周年を迎えるわが母校竹早は今なお私の誇りであります。大正九年四月、入学式をおえた五十名の生徒が、渡り廊下に敷かれた長い簀の子をドシンと踏み、石段三段登ると、そこがうす暗い二階建ての校舎でした。でもその教室で習った、英語、数学、国語のなんとむずかしかったこと。九十才を過ぎる現在、なんとか新聞やテレビを通じて世の中のことが分るのも、竹早町の五年間の教育がもたらしているからだと思います。

ハウ、ドウユウスベル？とお名ざしがあると首を縮めた英語の時間、代数幾何のむずかしかったこと、化学の原

子記号の暗記、階段教室の物理、今、思い出してよくも先生方があのお下げ髪の子に、手をとるように教えて下さったとありがたく思います。又国語では、時に芥川文学を読んで下さり、「地獄変」を一気に読んで頂いたあとの興奮は忘れられません。

第一次大戦に勝って一等国になった日本の世相は日に日に変わり(昭和天皇が東宮殿下で欧州視察の頃)体操もスエーデンからデンマーク体操にかわりハードルも跳ぶようになりました。長袖が元禄袖となり、学校では洋服を奨励するようになりました。そのかたわら、カドリールからはじまって、コチロン、ファウストなどの宮廷舞踊も習い運動会には踊りました。新旧交々の時代です。音楽会も師範と合同ですから豪華で、私達は「流浪の民」をよくうたいました。

されどながく妹達よ……とうたって卒業した校門はもう臉の中にあるだけです、なんとなくなつかしい楽しい五年間だったでしょう。

昨年は中村静子様、幸田千代子様が亡くなられ淋しくなりましたが、御病氣中だった川越様が小康を得られ嬉しく思います。皆様、しっかり生きましょう。



☆高女二十八回甲☆ 昭和三年卒
福田 千菊

平成十年、きびしい新年を迎えております。

私共がこの学校に入学しましたのは、大正十二年四月、学校の名称は当時、東京府立第二高等女学校でした。

入学してはじめての夏休みがあげました九月一日にはあの関東大震災が起りまして、学校は休校となりました。やがて復旧して授業は始まりました。私共はよい友達、御熱心な先生方に恵まれ、新しいことに挑戦する楽しい生活、スポーツも盛んで第二高女は第一高女とバスケット、バレーと競いあっておりました。ここで過しました五年間の生活は楽しいものでございました。今もなつかしい思い出が心に蘇って参ります。この私共のクラスは現在御健康な方々は、吉村様（大阪）、富岡様（四国）、石田・松宮・杉・粕谷・百瀬・戸塚・杉浦・山下・赤瀬・市川・鈴木の皆様、中田様は鳥取で家庭裁判所のお仕事と皆様お元気にお過ごしでいらっしやいます。まだ御消息のつかめない方もいらっしやいますので、お気付きの方はお知らせ下さいませ。



されている様です。ぜひ出席したいと思っております。

皆様くれぐれも御身お大切に、次のクラス会に元気でお目に掛かりましょう。

☆高女三十一回乙☆ 昭和六年卒
長津 みち

私共は昭和六年の卒業で既に八十才を超え、母校に学んでいた日々は遠い日の夢となりましたが、楽しかった学生時代の思い出は今も尚、心に焼き付いて居ります。

今でも絵の個展をなさるお元気な方もあり、そう言う場合には出来る丈夫くの級友が激励に集まり、一緒に食事を摂ったりし乍ら竹早時代の思い出や先生の事等、語り合っています。

俳句や和歌を楽しんで居られる方もあり、私自身古典の勉強会に出席したり歌会に出たりして、余生を送って居ります。

私共は日本で始めてマラソンの国際競走に参加された金栗先生が主任でしたので、マラソンや運動全般に熱心でした。

正月の箱根マラソンも予めコースを車で廻って見た事もあり、テレビ放送にも釘付けでした。これも母校竹早が、時代に先行してスポーツに力を入れて下さった賜物と感謝して居ります。

☆高女二十九回甲☆ 昭和四年卒
中村 綾子

私共二十九回卒（昭和四年卒）甲組は、現在もクラス回覧ノートをつづけております。このノートが一巡しますのに十ヶ月から一年かかりますが、クラス全員の日常がよくわかり、大変楽しく、またお互いのはげましとなり、クラスの尊い絆の役割をはたしています。この三月末で全員八十六才になりますが、ノートに参加できる方は一四名位になってしまいました。療養中の方々はご家族のご協力を頂き、ご様子は大体分りありがたいことと感謝しております。

思い返しますと、七十才代の時、二泊三日のクラス旅行を三回したことで、大変なつかしい思い出となりました。特に紅葉の京都旅行は、堀口先生ご夫妻（奥様はクラスメート）にお心ごもったご案内を頂き、クラス員も元気で沢山参加できましたので、この上ないすばらしい旅でした。その後クラス会はなるべくやって頂きました。ここ数年は次第に脚腰の弱っていらした方も少しずつ増えてきましたので、わかり易くて集り易い所をモットーに駅の側に会場をとり、年一回以上は開きたと、一同希望しております次第です。

☆高女三十四回☆ 昭和九年卒
竹内 富子

昨秋、小田急ハルクの大意満でクラス会をしました。お子様に送って頂いた方、御主人が送り迎えをして下さった方等で、駅から近い所をきめてよかったですと思われました。行事が重なった方、外出は無理という方などで出席は九人でしたが、楽しいおしゃべりに時のたつのを忘れ、予定の時間を大幅に超過しました。

満田様がパソコンで新しく名簿とクラス会の通知をうって下さいました。川田様はお曾孫様三人御一家の要、心配なさるお子様もおありの中運転免許の更新をなさり、御自分の、人様の足となっておられます。御趣味の染物を楽しんでおられる青田様。最近作の絵を御披露頂きたかった野口様。松丸様は隣の席が金指さんで、お心強かったと思えます。お元氣でした。その金指さん、大きなお茶会をおすませになり次々と興味深いお話、会がもりあがりました。牧田様はお子様の医院の電話番号のこと、明るく応待していらっしやるのでしよう、お若いこと。岡様は俳句の御本の御出版、教え子との会と、充実した日々をお過ごしですがこの所お妹様の御看病に心をくばっておられます。竹内は今年こそ悔いのない日々が送れますようと念じております。

☆高女三十回☆ 昭和五年卒
伊藤 光子

山口春野さんを悼む
私達高女三十回卒業生も齢八十五才を迎えてしまいました。でも年一回、甲乙合同のクラス会を催して居ります。顔ぶれは大体同じですが、たまに珍しい方がいらっしやると、大歓迎致します。切間際に、この原稿を書いていた時、村瀬さんからの電話で、山口さんの訃報に接し、愕然としました。実は昨秋のクラス会の折、春、桜の咲く頃小立（大橋）さんのお墓参りに行く約束をしました。花の咲くのを待たず、彼女は遠くよみの国に旅立たれたとは、人の世の無常をつくづく感ぜずにはいられません。

私達のクラスは、個性的な方が多く、ユニークなクラスでしたので、おかげで私達も、楽しい学生生活を送る事が出来ました。中でも山口さんは才女的な風格があり、最近では、同窓会にもクラス会にもまめに出席されていたので、忽然とした亡くなり方は、ガンと頭をなぐられた様なショックをおぼえます。文学的にも、絵画的にもすぐれた才能の持ち主で、美しい物をしっかり見つめる事の出来る清らかな心の持ち主で、学ばなければならぬ事が沢山ありました。彼女を偲ぶ会を持ちたいと計画



何せ傘寿をすぎた面々、体の不調も出ましたが明るく前向きにと又の日を思いつつお別れしました。

☆高女三十六回☆ 昭和十一年卒
金松 孜子

私達三十六回生は、卒業して今年六十二回目の春を、迎える事になります。少年老い易く学成り難し等と教わりましたが、本当にアツと云う間に時が経ち、お河童頭の女学生も、今は白髪の童女となりました。昨年六月新校舎御披露にも参加させて頂き、近代的な明るい校舎、設備の整った素晴らしい学校で学べる高校生はお幸せです。

私達六年に入学致しました時は、簀子の板廊下を、一時間毎に移動してお勉強しました。今の学生さん、此の校舎をいつ迄も美しく、大切に使うて下さい。

昨年はお友達が御三方亡くなられ、三月に石川節子さん、四月に杉浦清乃さん、十一月にはバスケットで活躍していた小丘愛子さん、だんだん淋しくなります。十一月五日には総勢十四名、秋晴れとは言えませんでした。河口湖の方へ紅葉を見に参りました。久保田一竹記念館、与勇輝さんの愛らしい人形等を見学し、暮れなずむ東京

へつきましたのは十九時、童心に帰って楽しい級会でした。この次は、車椅子を使つての御生活の方もいらっしやいますので、便利な所での会を次の幹事の方にお願ひ申し上げます。

☆高女三十八回白☆昭和十三年卒
瓜生田 俊子

平成十年の正月となり、三十八回生も大半が喜寿を迎え、月日の早さに驚きを感じます。

今年の春は卒業六十周年ですから、紅白合同のクラス会が開けると思いますが、後藤さんが紅組の方と相談して下さり、感謝しています。いつになるか決まりましたら、皆様にお知らせします。

母校の近くには鹿江さんや私が住んでいます。国分さんも引越して来られると聞き、喜んでいますが、

宇野さんの絵の展覧会は、いつも大作ですばらしいです。

悲しいお知らせは、立花さんの逝去で、美しいお姿を思い出しています。

もう悲しいことがないように祈っています。合同のクラス会に皆様、元気なお姿を見せて下さるのを、待ちます。

☆高女四十回☆ 昭和十五年卒

稲葉 良子

昨年、これまで篁会を二人三脚で果たされた、財団法人篁会館が施設の老朽化、周辺環境の著しい変化、時代対応目的の達成及び終了などから発展的解散いたしました。一抹の淋しさは禁じませんが、これに漕ぎ着けた、吉澤とよ理事長を中心の役員一同様に、改めて深甚の謝意を送ります。

篁寿会の運営も、時代の推移に伴い一応終了いたしました。集いの希望者が多いことから第二高女卒業生の集う会として再生するそうです。

さて平成九年度紅組春のクラス会は見送りでしたが、白組はクラス会一回と毎月の有志の会合を行ったと聞いています。紅組秋のクラス会は、十一月十七日、池袋のホテルメトロポリタン「花むさし」で野崎様、鈴木様のお骨折りにより開かれました。今回は四回から卒業以来始めての三木様（坂東）や神戸の梅澤様のご参加で、一際華やいだのですが、ご主人を亡くされたばかりの泉様、大谷様、児玉様には手厚いお悔やみを申し上げます。

十年度紅組、春のクラス会は、五月か六月頃本郷の鳩山様のお店で開催することを報告いたします。

☆高女三十九回紅☆昭和十四年卒
四谷 桂子

平成九年度のクラス会は谷田様、武井様のお世話で四月十六日のお昼、池袋のレストラン・ミストラルで美味しいフランス料理を賞味しながら楽しく語り合いました。参加者十九名で此の数年毎年一名づつ増えてまいり、殊に長年お目にかからなかった森田様が懐かしいお顔を見せて下さいました。



さて此の処悲しいお知らせも無く何よりと思っておりましたが、昨年四月十八日橋本寿子様（渥美）スペインバ

☆高女四十一回☆ 昭和十六年卒

岡辺 宏子

昨年は暗いニュースの多い一年でしたが皆様お元気にお越しの事と存じます。長年楽しみにしておりました篁寿会も三月二十六日の会を最後に幕を閉じました。淋しい思いが致します。

お世話になりました方々に厚く御礼申し上げます。

五月十二日に松柏軒にて服部先生を偲ぶ会をかねてクラス会が持たれました。多くの皆様はお元気にお越しの事と思ひますが卒業以来二十三名の方々が鬼籍に入られました。

昨年は一月二日に小松秀子様、七月二十日に高浦（竹中）寿子様、十一月十五日に小俣（高瀬）香居様が御他界になりました。

御冥福をお祈り申し上げます。風邪を引かない、転ばない、疲れ過ぎない、の三ないに気をつけて悔ない日々を過ごしたいものです。

クラスの皆様の御健康と御多幸をお祈り致します。

☆高女四十二回☆ 昭和十七年卒

手嶋（小暮）實枝子

こんにちは。いつの間にか七三才。口で言うとはんとにいやになります。が、でも皆とても若々しく、お喋りし

ルセロナで御主人様と御旅行中、心筋梗塞にて急逝されました。五月八日、関口教会カテドラルの追悼ミサには高木様に代表して参加して頂きました。心から御冥福をお祈り申し上げます。今年のクラス会是有馬様、高木様に幹事をお願い致しましたが、大方の皆様が喜寿を迎えられますが、どうかくれぐれも健康に留意され、元気でおい出来ますよう念じております。

☆高女三十九回白☆昭和十四年卒
大津 雅子

一、同期会としては何もしておりません。

二、年一回クラス会を開くことにしております。まだまだ元気な方も多くいらっしやいますが、年々出席者の人数は少なくなってきました。出席出来ることが幸と思う様になりました。三、残念ながら次の方々が最近亡くされました。

謹んで御知らせ申し上げます。

小松原富美子（北條）様

平成八年十一月十四日 没

原田和子（國重）様

平成九年十一月二十五日 没

二宮澄江（贛井）様

平成九年十二月二十六日 没

てるとトシなどごへやら、旅行の時のガイドさんも、アダ名で呼びあっている私達を見て「いいですねエ」を連発されてました。でも過信は禁物、みんな気を付けましょうね。

昨年は、新年会に始まり、七月に朝霧高原に一泊二日、ルームのまん前がぜーんぶ富士山、という大きな大きな富士山に見守られ、また、見渡す限りのラベンダー畑などを楽しみました。九月下旬、銀座でのクラス会、二七名出席。十一月二泊三日の北陸路の旅、十五名で、能登をメインに楽しみました。一番端の灯台までのぼり、荒々しい日本海と優しい内海をぐるりと眺め乍ら金沢へ、しっとりした小京都金沢を堪能しました。



今年、一月下旬新年会（クラス会PARTII）二十名で盛会でした。二月に初島へ軽い旅。七月にクラス会。九月には北海道へ旅する予定です。北

海道らしい所へ、というプランです。出来るだけ大勢の方でお会いしたいです。くれぐれも御自愛下さい。昨年を表す字が「倒」とやら、情けないですね。今年は「愛、華、歓」など、あの筆で書いて頂けるように。

☆高女四十三回 ☆ 昭和十八年卒
百竹会

昨年の百竹会は十月十四日に要町のオテル・ドゥ・キタオカで開きました。小じんまりした落ち着いた雰囲気のレストランで、遠方からの方を含め三十名の出席で楽しい一時を過ごしました。卒業以来半世紀余が過ぎその間には小林、藤井両先生、十七名の級友が不帰の客となられさびしくなりました。でも私達もずっと続いている年一回の会では女学生時代に戻り賑やかなおしゃべりが始まります。多感な十代を共に過したという事は、年を追う毎に大きな意味を持つてくる様な気がします。皆さんそれなりに趣味を持って精一杯明るく日を送っておられる様です。精神とは別にきびしい老いの現実もありますが、素直に受け入れ、出来るだけ前向きにいきたいと思います。諸事情で欠席の方々の御無事をお祈り致します。今年は童心に返りデイズニード行ききの百竹会です。皆さんお元気な姿でお逢いしましょう。

☆高女四十四回紅白 ☆ 昭和十九年卒
西村 章子

昨年の級会は、若葉の美しい五月八日、新しく落成した母校の新校舎の見学会も兼ねて開催されました。当日は速く倉敷からおいで頂いた岸本様をはじめ三十二名の懐かしい顔がそろいました。まず昼食会が文京区シビック・センターの、晴れた日には関東一円も眺望できる二十六階の部屋で開催され、椿山荘の美味しいお料理を頂きながら楽しいひとときを過ごしました。

開会に先立ち、先に逝去された草野(石川) 静江様、小川(吉田) エイ子様のご冥福をお祈りして黙禱を捧げました。村田様よりの会計報告、乾杯の後、一同すっかり昔にもどりにぎやかに懇談しているうちにまたたく間に時間が過ぎてしまいました。

午後三時頃に一同母校に移動し、まず教頭の矢嶋邦雄先生より新校舎の概要、学校運営や最近の生徒の様子等について丁寧な説明を頂きました。続いてご案内頂いた新校舎は、電算室、LL教室等の最新の機能を備えた立派なもので、私共の時代の校舎との違いに眼をみはり、一同間もなく百周年を迎える母校の発展ぶりを大変うれしく思いました。次回の幹事は戸原様、保坂様をお願いすることになりましたが、

是非今回同様多くの皆様のお元気な顔を拝見したいと願っております。

☆高女四十五回 ☆ 昭和二十年卒
青木 美樹子

平成九年の級会は、六月十九日(木)に小石川後楽園の涵徳亭で行われました。

此処は戦後間もない卒業後二年目位のクラス会を開いた事のあるつかしい会場でした。当時とは周囲の様子もすっかり変わっていましたが、幹事の倉岡小夜さん越沢正子さんのお骨折りで、満開の花菖蒲のお庭を散策したあと、亭内で日本料理を頂き乍ら、楽しいおしゃべりに時を過ごしました。

出席者は三十九名で、中でも丁度帰国中でいらした土谷(杉原) 昭子さんが、卒業後初めてのクラス会参加という事で、出席して下さったのはとても嬉しい事でした。土谷さんは昔と少しも変わらないや、早口で、米国での生活の様子などお話しして下さいました。此処の処、皆勤で出席して下さいさる関西の宮田さん犬伏さんのお顔も見えて、一同来年の集合を約束して散会しました。

ブが話題に上りましたが、その中皆様の処へ、季節のよい頃にクラス会の御案内が届くことと思います。最後に悲しいお知らせですが、平成九年十月十九日に、高畑(大塚) 昭子さんが亡くなられました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

☆高女四十六回 ☆ 昭和二十年卒
唯根 幸子

十月三十日、吉田幸子先生をお迎えし、四十二名が出席して、今年の若竹会を芝パークホテルで致しました。小林幸輔先生には当日の朝体調を崩されご欠席となったのは残念でした。

先ず、クラス会を始める前に、将来に備えて若竹会の規約(案)を、安永様の提案で皆で話し、来年度からの施行を相談しました。

会は卒業以来初めて出席の木村和世様(医師)が見え、判らなかつた木村様の住所を探し出し連絡をつけて下さった斎藤様の苦心談を聞き、まだ連絡のとれない数人にも是非何とかと、話し合いました。

又今年、度々新聞各紙に取上げられた、カヌーリクリエーション協会の、事務局長高野典子様からカヌーへの誘い、カヌー講習会への参加はクラスメートならタダ、というような楽しい話も伺いました。

☆高女四十七回 ☆ 昭和二十二年卒
白水 八重子

座興に、おはなしおばさんのボランティアをしている者の昔話も出ました。次年度の幹事も指名に依って心よく引受けて下さり、楽しく過した好天の一日、又の再会を約して散会しました。

私達の学年が女学生として入学した四月、米軍の飛行機が東京に爆弾を投下した年でした。そんな時代であっただけに三年生位になると戦争は激しくなり、疎開が始まり、級の中の友達や地方へと転校されるようになりました。戦争が終わり、東京にもどられた人、家は焼け疎開地で女学校を卒業した人も多かったのです。

そしてそれぞれの人生を歩き、や々と家庭での責任も軽くなり、地方の人々の連絡もとれるようになりました。それだけに級会は楽しく、地方に根をおろした人々もにこやかに出席されるようになりました。

昨年は四月十一日、文京区役所の新しいビルの中の椿山荘で開かれ、四〇人近くが集まり、年令は忘れ昔の女学生時代にもどった楽しさでした。来年は私達も「古稀」を迎えることになりました。今年度の級会に皆さんに計り、楽しい

☆高校 三回 ☆ 昭和二十六年卒
古平 八重子

平成九年秋たけなわの十月十八日に簗燦会を有楽町の胡蝶で開きました。はるばる京都からのご参加も含め、総勢三十四名の方々のお出ましをいただきました。会場はビルの地下で、お店の門口に置かれた床几、そして杉や竹の植込みにせせらぎが流れ、露地行灯の明りがゆるる日本情緒の中で、おいしい懐石料理を味わいました。



何十年ぶりにご出席された方もあつて、それぞれ久しぶりのお目もじに昔話の花を咲かせて時のたつのを忘れる程でした。

宴の間に竹早創立一〇〇周年のことにつき、篁会理事の高木萬里子様そして新任の小澤悦様よりご説明がありました。二〇〇〇年がその時とのこと、本当に脈々と続く伝統の重みを感じました。そして関西篁会の河合道子様、又湘南篁会の弥永珪子様よりそれぞれ御報告がございました。

ここで悲しいお知らせがございます。森本美智子様が平成九年十月十九日にご逝去されました。森本様は篁会理事としてずっとご活躍下さいました。庄司孝子様が平成十年一月十日にご逝去されました。庄司様は生涯ボランティア活動にたずさわってこられました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

以上御報告をさせていただきます。新しい幹事様の下、次回篁燦会での再会を楽しみにしております。

☆高校 四回 ☆ 昭和二十七年卒
飯高 正子

九月十六日、台風十九号接近の報にはらはらしながらも、後楽園内の涵徳亭で無事に九年度の紫竹会を開く事が出来ました。悪天候にもかかわらず二

功裡に終わったと云えよう。この他、おシャレに仕上った会報に係った方、骨身惜しまず働いた心優しい男性諸氏に頭下る想いである。終りに、全く無償の労力を快く提供された同期の仲間達の心意気と見識を、いま誇らしくかみしめている。ありがとう！又賑やかに会い集いましょう。

☆高校 八回 ☆ 昭和三十一年卒
引地 芳恵

八回生の皆様へは、この欄からのご報告は初めてになると思います。

四十二年前、青春の一時期に、竹早高等学校という場を共にした仲間達が呼び掛け合って、ほとんど毎年のように会を開き、同期会もすでに十五回を重ねてきています。他にも、ゴルフの会——八起会——や、清里への山行等、随時有志の集いも持っています。何時の会も、とても楽しく沢山の元氣と励ましを持ち帰ることが出来ます。

今の私達の世代は、大方において、子育てを終え、今、親達を送ろうとしています。社会的にも還暦という節目を迎えて、一つのステージを終え、次のステージに立とうというところですが、これからのステージを価値あるもの、そして楽しいと思う時、クラスメートの皆さんが掛替えないものとなってきます。共に過ごしたあの頃は、確かに持つ

十四名の出席を得、相変わらず賑やかに楽しい時を過ごしました。卒業後四十五年、途中何度か休みながら続いている集まりですが、近年は時間に余裕の出来た方々が増えたためか、卒業以来初めてという珍しい顔ぶれも多くなり今後の会合が一層楽しみです。

ところで、次回、十年度は久しぶりに関西での紫竹会は如何かと、関西在住の方々にお願ひしてご快諾を得たのですが、関西篁会の幹事役と重複してしまつたということで、紫竹は一年休み、十一年の三月頃に開く予定となりました。

関西篁会は秋に大阪での開催を計画なさっていられるとのこと、すばらしい企画を考慮中だそうで「是非ご参加ください」とお誘ひを受けました。最後に大変残念ですが

伊藤玲子様(四月二十一日)
渡辺裕子様(十一月十二日)
お二人のご逝去のお知らせをしなければならなくなりました。胸塞がる思いで、ご冥福を祈るのみです。

☆高校 七回 ☆ 昭和三十年卒
志賀 真砂子

平成九年度篁会総会のご報告
どんな会合でも幹事に苦勞はつきものだが、わけても我々年度の総会開催には多くの困難を伴つた。母校を会場

ていたはずのあつい思いが、今、どんなかたちで私の中にあるのか、ないのか、旧友達の顔を見ていると否応もなく思い出されるからです。

今年、篁会の当番学年にもなります。総会には、ぜひ参加して下さい。一人でも多くの旧友にお逢ひしたいと思つています。

☆高校十回 ☆ 昭和三十三年卒
角掛 隆

九十七年十一月十五日(土)、ニューピア竹芝ノースタワー二十四階「銀座アスター」にて同期会を行いました。



にあてたからである。狭い敷地を最大限有効に生かした斬新な設計により、すっかりモダンに変身した新校舎を、多くの卒業生にご披露するのが主眼であった。ほゞ一年以上にわたり、会報発行、さまざまな打合せ等会合は十回に及び当日を迎えた。前日から会場作りは怠りなかつた筈だが、やはり地階から二階までイス運びの体力勝負で始まつた。会計、案内掲示、スリッパの世話、来賓、高齢の方への湯茶サービス、一九二名出席者の内、四四名を数える我々はみなコマネズミの様に立ち働いた。議場では新会長城戸崎愛さんのお人柄そのままの暖かな挨拶に次ぎ凛々とした前田峰子さんが心打つ代表挨拶をされた。催物は各種コンクールに実績を持つ吹奏楽部のフレッシュな演奏だったが、係一同廊下で耳を澄ます。地下食堂での懇親会はケータリング料理がまことに心利いたもので好評を頂き、和やかに閉会となる。一同ほつとほつと、明日の授業に支障ない様隅々まで清掃の後、残り物で打上げの乾盃を挙げたのだった。

これまで打合せの度毎に、核となる常連幹事の他に、必ず新しい助っ人が加わり心強かつたが、当日不参加でも何らかの協力をされた方は延百五・六十名に上る。正に大海戦術の成果は、約十五万円の黒字というおマケつきとなった。反省点もあつたが、おおむね成

出席は小島・本多・加唐(間瀬)・辻の各先生(先生四名)、A八・B七・C三・D七・E九・F十二(生徒四十六名)でした。

欠席者の返信メッセージを各クラスの代表が読み上げ、近況報告を各自でしながら盛会で終了。初出席は、西亀君、二次会は三十七名が出席、三次会深夜迄と皆さん元氣でした。

全員で集合写真を撮りましたので掲載いたします。(見えるかな?)

☆高校十一回 ☆ 昭和三十四年卒
堀江 禮子

前回の同期会時(一九九六・一九九七年度の、八月十四・十五日、往々夏を惜しみながらの国広セミナー)と銘打って、清里八ヶ岳寮での一泊二日の会を計画しました。

講師は国広誠先生、お盆の中日という日がどうであつたのか——男性方の参加も多く、二十名が冷気凛々「寮」に集いました。

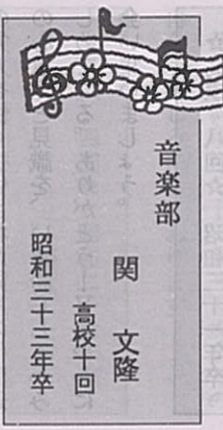
国広先生の御活躍ぶりは今さら申すまでもありませんが、昭和三十一年(一九五六)年、新任の先生として竹早へ赴任され、初めて担任されたのが私達の学年だったので。口角泡を飛ばしながら、朔太郎の「郷愁の詩人と謝蕪村」をはじめ、私達高校生を文学の世

界へのめりこませたあの数々の名講義の技術は、昔とお変りなく(体型は相当御立派に)、十五日の午前中「教える立場からの四十年」ということで、現代若者への鋭い指摘も交えながら、思い出を語って頂きました。

☆高校十九回 ☆ 昭和四十二年卒
一休会幹事 小泉 晴子

一休会(高校十九回卒業同期会の愛称)は、昨年六月十三、十四日に、卒業三十年の行事として、箱根湯本に泊旅行を致しました。織戸先生、国広先生、桑原先生、晴山先生の四先生をお迎えして、幹事さんのご尽力で男女三十名以上の参加を得ました。

OB・OG会だより



音楽部OB会も前回開催より早や、十年以上が過ぎてしまいました。何人かの方に催促されながら都合がつかず申し訳なく思っておりましたが、最近

たが、関西からの参加もあって、帰りの時間を気にせず、温泉につかり、昔話に花を咲かせることが出来ました。今年の一休会は、六月十三日(土)午後五時より、目白駅近くの「日立・目白クラブ」で盛大に開催の予定です。十九回生のうち昭和二十三年生は今年五十才を迎えます。各方面でそれぞれの歩みを携えて集い、語り合いたいと思います。どうか皆様のご参加をお待ちしております。

☆高校二十二回 ☆ 昭和四十五年卒

私たちの学年は、外では大学紛争、内では教師のリベート事件を発端とする学園紛争という特異な状況で卒業しました。本来であれば、尊敬できる教師と中のよい級友とが集まって楽しい同期会ができるでしょうが、この学年ではそうもいきません。俗物の「反

高校九回以上の先輩方(松尾、浅谷、石川、八木、池田等諸先輩方)と会う機会が出来ましたので、今年こそは

と、秋頃の開催を目標にして五月(六月)に準備の為に会合を持ちたいので、十一回生、十二回生等後輩の人達も幹事参加をお願いします。名簿も作成する為、音楽部OBの方御連絡を待っています。年代を越えての交歓の会になることを楽しみに!

追伸、開催日、場所、方法等に、希望があれば、御連絡下さい。

- 連絡場所 池田 貞夫 〇四二七一九三―三八八七(自宅) 〇四六二二―八二六二(会社) 関 文隆 〇三三三五〇―三三五七(自宅) 〇三三三五〇―三三五五(会社)

平成9年度 総会報告

会場 都立竹早高等学校
日時 平成九年六月八日(日)

平成二年着工、八年二月末に完成した母校での篋会総会は、来賓七名、会員二八五名の方々のご参加を頂き、正午より始まりました。

第一部。総会。 城戸崎 愛会長のご挨拶の後、議事(会則改正等)。終了後、竹早高校吹奏楽部の演奏に移りました。此の時期は内部の引継ぎ中で二年生のみに拠る演奏でしたが、その素晴らしい、先輩の晴姿に涙する会員の姿もみられました。尚、舞台造り等には一年生の協力大でした。

第二部。懇親会は会場を地下1階、

今回は会場の都合で、料理はマダム石島(本来は定時制の)及びテラスに移し、筒井利現現学長のご挨拶。濱 和廣元校長のご発声で乾杯により始まりました。

今回は会場の都合で、料理はマダム石島(本来は定時制の)及びテラスに移し、筒井利現現学長のご挨拶。濱 和廣元校長のご発声で乾杯により始まりました。今回は時間に縛られることが無かったことで、ゆっくり新校舎を見学、特にユニークな体育館棟には、同窓生の依田先生が、バスケット大会の合間を縫って案内して下さいました。

新装なった母校での篋会総会の準備は色々な問題を含み難航しました。主に、会場、昭和五十七年以降のしかも新装なった母校での総会にどれ位の会

面」教師には一度と会いたくないし、散り散りの級友がまとまることも容易ではありませんでした。ようやく定期的集まるようになったのは、卒業後ほぼ四半世紀を経た一九九四年からのことです。

初めての同期会では、全く別人のような容姿になった人、髪の毛が変化しただけの人、いろいろでしたが、どれも性格だけは変わらないようにお見受けしました。その後も一年半くらいの間隔で集まっていますが、同期生だけの集まりです。次回は、来年の春になる予定です。これまで同期会の案内が届いていない方は、元陸上部でいつも元気な内山(旧姓岩本)真知子さん(電話 〇三三三四二七―六三三六)にご連絡下さい。

員が集うのか、大人数が収容できる舞台付き体育館は、床へのシートの設置、撤去の点で無理との結論、収容し切れなくても二百人位迄なら何とか成るとの決断で、大会議室、食堂での結論を、出したのです。又前日から会場設営(ここには四十八回生数名が参加してくれました)、当日の撤去運営まで、多勢の同期の手によって進行しました。会報への取組みは、平成八年七月の引継ぎから始まり、九年四月の最終校了迄、三名が加わりました。会報発送は九年四月十九日(土)、二十日(日)に小石川郵便局に於いて行われました。延べ人数 六回生十四名、八回生十八名、四十八回生九名、会報委員三名、当番回生四十八名。ご協力有難うございました。以上 当番幹事 高校七回生 山廣俊雄

Table with financial data for the association meeting, including income and expenses for the fiscal year 1997.

Table with financial data for the association meeting, including income and expenses for the fiscal year 1997, continuing from the previous table.

理事会報告

平成九年度には、次のとおり理事会を開催した。

○五月二十一日 出席 二十名
委任 十三名

▽議題一 会則改正案について

平成九年度総会に付議する会則改正案について決定した。

▽議題二 平成九年度事業計画及び予算について

原案どおり決定した。

▽議題三 その他

新校舎落成記念に寄贈した掲示板の使用不能の状況を改善するよう学校に求めたことが報告された。

○八月七日 出席 二十名
委任 十名

▽議題一 平成九年度総会報告について

担当学年の志賀真砂子氏から報告された(董会総会報告・別掲)。

▽議題二 平成十年度総会について

本間宏理事から概略の計画について説明があり、併せて会費額の変更について提案され、審議ののち上限を七千円とすることに決定。

▽議題三 百周年記念事業について

對崎副会長から百周年記念事業打合せの状況が報告され、実行委員に董会から五名を選出することについては会長に人選を一任した。

▽議題四 理事の担当について

小山(豊)副会長から提案があり、次のとおり決定した。

総務(二十二名)

内 庶務(八名)、企画(三名)、
名簿(五名)、会計(三名)、
理事会(四名)、委員会(三名)

総会(八名)
会報(十一名)

▽議題一 百周年記念事業実行委員会の活動状況について

對崎副会長から出版社を「恵雅堂」

平成8年度董会会計報告	
自・平成8年4月1日 至・平成9年3月31日	
収入	
平成7年度より繰越	10,784,368円
受取利息	63,578円
入会金・会費	1,205,000円
観劇会収益金	64,298円
名簿代金	4,000円
合計	12,121,244円
(注1)会報委員会関係は別会計です。	
支出	
贈呈記念品費	407,475円
☆校舎落成案内費	95,950円
☆校舎落成式典協力費	462,632円
☆校舎落成記念品寄贈費	848,980円
総会補助費	166,691円
新入会員名簿制作費	78,280円
アルバム復元費	61,388円
事務委託費	120,000円
理事会会費	338,909円
通信費	34,010円
慶弔費	130,000円
旅費	77,820円
事務用品費	57,930円
雑費	1,596円
合計	2,881,661円
収益差額	9,239,583円
平成9年度へ繰越	9,239,583円

○十月二日 出席 二十五名
委任 五名

▽議題一 理事、監事の選出について

森本美智子理事の辞任申し出に伴い後任に監事小澤悦氏を、監事の後任に金森トシエ氏をそれぞれ選出した。

▽議題二 百周年記念事業について

一、学校側から次の協力を要請された

①百周年記念事業実行委員会への参加

②記念誌への寄稿

③記念誌作成のための資料提供

④財政面での負担

⑤事務的な仕事の手伝い

⑥実行委員会委員長の董会からの就任

費用について概略説明があった。

三、財政面での負担については当面百

万円を支出することとした。

四、財団法人董会館は、記念誌作成の

ため上限二千万円までの資金を用意

していると、吉澤とよ理事から説明

があった。

五、記念事業に向けて募金活動を推進

するよう実行委員会に提案すること

とした。

○十二月四日 出席 二十三名
委任 八名

▽議題一 百周年記念事業実行委員会の活動状況について

對崎副会長から出版社を「恵雅堂」

委員 クラス会、同期会の結成に努め、同期会員間の連絡にあたり、適時、理事を援けて本会の運営に協力する。

【役員】

六、役員は任期は3年とし、再任を妨げない。

ただし会長、副会長の重任は2期までとする。

七、会員の発議により、理事会において出席理事の三分の二以上の賛成決議によって、任期

中の役員を仮に解任することができる。この

場合、次期総会までの間、当該役員は職務を

停止し、総会において決する。

【会議】

八、会議は次のとおりとし、会長が召集する。

総会 年1回、原則として6月に開催する。

ただし、理事会の要請により臨時に開催

することができる。理事の要

請により開催することとする。

九、委員は、会の運営の用に充てるため会費を

納入することとする。

(1) 会費の種類は年会費及び入会金とする。

(2) 年会費の額は1,000円とし、総会開

催通知に同封の振替用紙により納入す

るものとする。

(3) 新入会員は、入会金8,000円を入会

時に納入する。ただし、入会後3年間の

年会費を免除する。

(4) 総会の費用については、別途実費を徴収

することができる。

【会計】

十、会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三

月三十一日に終了する。

(1) 会計担当理事は、会計簿に収支に関する

一切の事項を明記、管理し、理事会に報

告する。

(2) 理事会は当該会計報告を監事の監査に付

し、その結果を決算報告書として総会に

提出し総会の承認を得なければならない。

【事業】

十一、本会はその目的を達成するため、適時会

報及び会員名簿を発行するほか、会員の参加

する各種の事業を行う。

十二、会員は、地方に本会の支部を設けること

ができる。この場合、各支部代表役員は理事

会と緊密な連携を保つこととする。

【雑則】

十三、会員は、転居、改姓名の場合は、本会へ

通知しなければならない。死亡の場合は遺族

または近隣の会員等が本会へ通知すること

とする。

十四、本会則に定めるもののほか、理事会の運

営及び会計の処理に関しては、必要に応じ理

事会が規則で定めることができる。

【会則の改正】

十五、本会則は、理事会が発議し、総会におい

て出席会員の過半数の賛成を得て改正するこ

とができる。

【付則】

(1) 本会の発効日は、平成九年六月八日とする。

(2) 会費に関する事項九(9)については平成

十年四月一日から適用し、同(9)について

は平成十年三月一日から適用する。

(3) 本会則の発効日以前に選任され、現役員

である者は、本会則により選任されたも

のとお見做す。

会費納入のお願い

平成九年度の総会において会則が改正され、平成一〇年度から会員の皆様から年会費を納入して頂くことになりました。つきましては、本会報に同封の払込用紙により、会費の納入をお願いいたします。

なお、新入会員の皆様は入会後3年間、年会費が免除されます。

※これに伴い、これまで会報送付の際にご負担をお願いしていた通信協力金は廃止いたします。

董会会則

【名称及び目的】

一、本会は董会と称し、東京都文京区小石川4

1-2-1東京都立竹早高等学校内におく。

二、本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展と社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

【会員】

三、本会は、次の会員及び客員により構成する。

(1) 会員 左記学校の卒業生(中途退学者で

本人が入会を希望し、理事会が承認し

た者を含む)。

① 旧東京府立第二高等女学校・同補習科

・同専攻科、東京都立第二高等女学校

(以下「旧制第二高女」という)。

② 東京都立竹早高等学校。

(2) 客員 旧制第二高女及び東京都立竹早高

等学校の現・旧職員。

【役員】

四、本会に次の役員をおく。

名誉会長 1名 現職校長に委嘱する。

名譽顧問 1名 前会長に委嘱する。

会長 1名 理事会が会員から推薦し、総

会において選任する。

副会長 3名 理事の互選により、会長が委

嘱する。

理事 30名前後 委員の互選又は推薦及び理

事の推薦により理事会が選出

し総会において選任する。

会計 3名 理事の中から会長が委嘱する。

監事 2名 理事会が会員から推薦し、総

会において選任する。

委員 卒業各回ごとに2名以上とし、

会員から互選する。

【役員の任務】

五、役員は任務を次のとおりとする。

会長 会務を統括し、本会を代表する。

副会長 会長を補佐し、会長に事故があるときは会長の職務を代行する。

理事 会長、副会長を補佐し、合議により企画、立案等の会務を処理し、本会の運営にあたる。

会計 本会の収入及び支出を管理する。本会会計の監査を行い、総会で会員に報告する。

学校の現況

教頭 矢嶋 邦男

明治三十三年、東京府立第二高等女学校として、創立され、昭和二十五年現在の東京都立竹早高等学校と改称し、男女共学校となった本校も、平成十二年(二〇〇〇年)には、百年目を迎え、百周年行事を行おうとしています。筆会のご協力もお願いしつつ、着々と準備を進めています。今後とも、ぜひご援助を宜しくお願い致します。

卒業生総数も、明治補習科・一四九名、昭和補習科・一三二名、昭和専攻科・七三名、第二高等女学校・三二八四名、それに、平成九年度の卒業生・二五三名を加え、竹早高等学校の卒業生・一三四九五名となります。筆会のみならずの発展、充実が大いに期待される所です。学校としても、第一期、平成五年、第二期、平成八年の二期の校舍落成を終え、新しい歩みを始めたばかりです。古い伝統を継承しつつ、新たな息吹を吹きこみながら、活動を進めています。平成九年度の主な行事を次に書きます。

- 四月八日 始業式
- 四月九日 入学式(二五二名入学)
- 四月二十三・二十四日 健康診断
- 五月二日 校外授業
- 五月二十・二十三日 中間考査
- 五月二十八日 体育祭
- 六月二日・十三日 教育実習
- 六月十七日 避難訓練
- 七月四日・七日 期末考査

- 七月九日～十一日 球技大会
- 七月十八日 歌舞伎教室
- 七月十九日 終業式
- で一学期が終了しました。夏休み中にクラブ合宿があり、二学期は
- 九月一日 始業式・防災訓練
- 九月十九日 竹の子祭
- 九月二十・二十一日 竹早祭
- 十月四日 学校説明会
- (七百名程の中学生、保護者来校)
- 十月二十三・二十八日 中間考査
- 十一月七日 開校記念日
- 十二月九日～十二日 期末考査
- 十二月二十五日 終業式
- 冬休みに入ってからすぐスキー教室を実施、三学期が
- 一月八日 始業式
- 一月二十八日 推薦入学試験(四十四名入学)
- 二月十二日 帰国学級入学試験
- 二月二十日 学力検査
- 三月二・六日 学年末考査
- 三月七日 卒業式
- 三月九日～十二日 修学旅行(二年、九州)
- 三月二十五日 修了式

平成九年度が終わります。進路について言えば、推薦入学試験もほぼ終わり、これからは一般入学試験が始まります。平成八年度卒業生の進路は、平成九年四月現在で、国・公立大学四名、私立大学八九名、短大(国・公立・私立)一八名、専門学校二四名、就職二名です。平成八年度大学等合格状況は、以下の通りです。

- ◎国・公立大学
- 千葉、埼玉、東京都立、東京農工、東京商船、横浜国立、各大学等一四名
- ◎私立大学
- 早稲田、慶応、上智、国際基督教、立教、青山学院、津田塾、東京女子、日本女子、中央、明治、法政、学習院、明治学院、日本、成蹊、東京理科、専修、成城、東洋、各大学等三二二名。
- ◎私立短大
- 青山学院女子、学習院女子、共立女子、跡見学園女子、各短大等二三名。

※主な指定推薦依頼校は
慶応(理工・商)、学習院(文・経・理)、東京理科(理)、立教(英米文)、明治(理工)、中央(文・法)、日本(理工・経済)、成蹊(法)、成城(法)、大東文化(法)、法政(法・経済・工)、東京電機(理・工系)、東邦(理)、北里(薬)、亜細亜(経営)、清泉女子(文)、東京経済(経済・経営)、東洋(法)、白鷺(法経)、工学院(工)、東京家政、武蔵(人文)、共立女子(家政)の各大学、及び上智、成城、産能、東京経済大、立川の各短大等です。

以上の通り、かなり詳しく、学校行事、進路状況について書きましたが、現在の竹早高校の状況が判りいただけたのではないのでしょうか。

今後共、同窓生の皆様のご支援、ご協力をお願い致します。また、文化祭等の機会に母校へお立ち寄り下さい。

※平成十年度の文化祭は
九月二十二・二十三日です。

会報通信

新生「筆会報」もお蔭様にて9号を発刊する事が出来ました。ありがとうございます。ありがとうございました。

今号は新入メンバー山岸紀子君(高校四十五回・平成五年卒)が加わり「先生の消息・大塚朝治先生」「お便り談話室・宝塚の大樹 榎さん」の取材に活躍してくれました。

今後このような若い新入メンバーの参加と活躍を大いに期待いたします。

しかし私達会報委員会のメンバーは新生筆会報設立時からのリーダー的存在であった森本美智子さん(旧姓神宮)が昨春秋、癌の為に亡くなられた事に大きなショックを受けました。彼女の死について、女優の有馬稲子さんが東京新聞のコラムの追想で「若い頃、雑誌の敏腕記者として活躍し、若い女優さん達の面倒をみられ、私もお世話になりました」と書いているくらい面倒見の良い人でした。我々後輩にたいしても蔭に日向にと、世話を下さいました。ここにご冥福をお祈り致します。※さて百周年記念に向けて資料の収集をお願いしておりますが、誤解があるといけないと思いますので説明させていただきます。同窓会報は「たかむら」

「筆」? 第一号が明治四十三年から発行されており昭和四十一年五十九号、六十号以降資料無く不明 「筆」復刊

昭和五十一年.....

竹早高校坂原富美代先生(高校十七回・昭和四十年卒)調べ

平成二年(一九九〇年)新生「筆会報創刊」〜平成十年(一九九八年)となり新生「筆会報」は一号から資料は揃っていますのでお間違いなく。尚欠落している資料は別頁で坂原先生が一頁を割いて報告しております。

※今まで会報に同封しておりました振込用紙「会報通信協力金」千円毎回ご協力頂き、ありがとうございます。理事会の方針で今回より「同窓年会費」ということになりましたので宜しくお願い申し上げます。従って会報だけの会計報告は今回が最後で以後同窓会の会計報告の中に繰り入れられます。

※昨年の会報は約一万三千通発送し約四百通が返送されて来ました。住所を移転された方は住所の変わった事をハガキで

〒113-0003 東京都文京区小石川4-1-1
東京都立竹早高等学校内「筆会」名簿委員会宛お知らせ下さい。

平成十年二月末日記す

会報編集委員長 角掛 隆

(高校十回・昭和三十三年卒)

◎会報についての御意見・御希望は

- ・ハガキで
〒113-0022 東京都文京区千駄木3-22-11-623
 - ・FAXで
03-3823-0064 「筆会報・角掛」
 - ・E-mailで
XLB07035@nifty-serve.or.jp
- 〒ニットー内 角掛 隆 までお待ちしてます

8号 会報会計報告	
平成10年3月31日	
振込み及び現金	2,125,000
<収入の部>	
正味金額	2,027,960
広告代金	830,000
受取利息	18,826
合計	2,876,786
<支出の部>	
会報発送料	1,034,532
制作費	1,866,795
編集費	169,357
発送昼食代	57,796
宛名シール	57,366
雑費	57,954
合計	3,243,800
差引残高	367,014
1〜7号残高	6,806,974
合計	6,439,960
定期預金(1口)	4,015,240
第一勧銀(普)	747,805
郵便貯金(普)	1,607,071
現金	69,844
合計	6,439,960
会計担当	高木萬里子
以上相違ないことを認めます	
平成10年3月4日	
山廣 俊雄	

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

同窓会 篁 会

会長 城戸崎 愛 (料理研究家)

高女43回生

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

関西 篁 会

会長 河合道子

高校3回生

クスリのご相談は

株式会社 フヂヤ薬局

薬剤師 小川英康 (昭和40年)

東京都墨田区5-39-4 TEL(03)3661-6519

淑子の張鍼灸室

室長・国立国際医療センター麻酔科勤務(月・水)

医学博士・鍼灸師 藤田淑子 (昭和23年卒)

診療日: 火・木・土 (限定予約)

☎113-0022 東京都文京区本駒込3-34-3

TEL 03(3821)7075 FAX 03(3822)2986

平成9年9月、同窓会・教員・PTA・各代表による百周年記念事業実行委員会が発足し、百周年に向けての準備活動がスタートしました。

式典 西暦2000年(平成12年)11月18日(土) 式典後祝賀会 ※会場は検討中
記念誌 西暦2001年(平成13年)発行予定

○百周年記念誌発行に向けて資料を収集しています。

★ 第二高女と竹早高校で繰り広げられた多くの青春の日々を可能な限り再現することが編集方針の一つです。
そのために参考になる資料をお寄せ下さい。

★以下の資料がありましたらご連絡下さい。

- ・同窓会報 「たかむら」「篁」 (4号、7号、54号、55号、60号)
- ・卒業アルバム (高女1~10、14、15、24、37、45、47回卒)
- ・校友会誌「たけはや」 (S11~13年、8~11号以外)
- ・生徒会新聞 (S24~26年の5部以外全く残っていない)
- ・文集など生徒の文章
- ・周年行事の記録、記念誌
- ・学校行事の記録 (文化祭、音楽会、体育祭、遠足、校外授業、臨海学校など)
- ・生徒手帳、生徒心得、時間割、ノートなど
- ・卒業生の著書

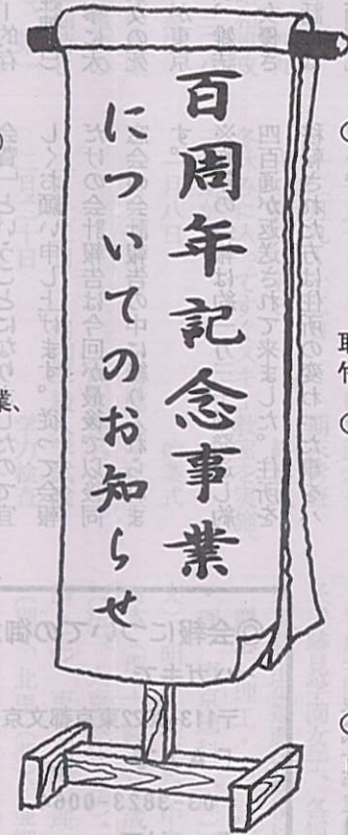
※お問い合わせは資料収集担当までお願いします。

- 西村章子 (高女44回 昭和19年卒)
- 中村倭文子 (高女44回 昭和19年卒)
- 高木萬里子 (高校3回 昭和26年卒)
- 向井正昭 (高校4回 昭和27年卒)
- 角掛 隆 (高校10回 昭和33年卒)
- 坂原富美代・細田盛夫 (高校窓口 ☎03(3811)-6961)

○百周年記念事業実行委員

- 同窓会 (金森トシエ・水原康子・小山豊子・小山紀久彌・對崎俊一)
- 教員 (三輪主彦・坂原富美代・中原道高・細田盛夫・永田正博・俵田浩一)
- PTA (高木万千代・木村定子)

募金活動を検討中です
ご協力をお願いします



○取材活動をしています。
松宮葉津子さん(昭和3年卒)
湘南篁会(昭和5~16年卒の方々)
高女44回生(昭和19年卒)
高女から竹早への過度期の卒業生(昭和25・26年卒)
へのインタビューをしました。
取材を希望される方、情報をおもちの方、竹早高校までご連絡下さい。

○「100周年記念誌通信」を発行(平成9年11月より月刊)しています。
ご希望の方は返信用封筒に宛名を書き、90円切手を貼ってお申し込み下さい。
東京都立竹早高等学校 百周年委員会 (坂原・細田)
〒112-0002 東京都文京区小石川4-2-1
TEL 03-3811-6961
FAX 03-3812-3565

○インターネットでの掲示板

<http://www2.tky.3web.ne.jp/~takehaya/>
★現在、明治から終戦までの沿革史や、資料の一部や写真等を掲示しております。ご利用下さい。E-mailで担当との直接情報交換も可能です。

<h1>SALAT</h1> <p>本社 兵庫県姫路市北条356-1 〒670-0947 Tel.0792-84-1380 Fax.0792-24-7746 東京支社 東京都台東区台東2-27-7 〒110-0016 日土地御徒町ビル8F フリーダイヤル0120-036381 Fax. 03-3832-6389</p>	<p>對崎俊一法律事務所 弁護士 對崎俊一 昭和40年卒(高校17回)</p> <p>〒105-0001 東京都港区虎の門1-1-11 マスダビル5F</p> <p>TEL 03-3506-7941 FAX 03-3506-7903</p>	<p>バイオ理化学実験器械 販売 日京テクノス株式会社</p> <p>代表取締役 新井 堅司 昭和30年卒(高校7回)</p> <p>〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-8</p> <p>☎03-3814-2066 FAX 03-3814-2060</p>
<p>手袋人形作家 子供の文化研究所</p> <p>講師 長縄 泰子 旧姓長谷川 昭和25年卒(高校2回)</p> <p>☎171-0021 豊島区西池袋4-3-5 TEL 03-3982-6847</p>	<p>河野歯科医院 ☎3811-5456</p> <p>文京区小石川1-16-11 学校医 河野正勝</p>	<p>奄美クルマエビ(株) 代表取締役 上野国衛 昭和33年卒(高校10回)</p> <p>〒894-0506 鹿児島県大島郡笠利町手花部353-1</p> <p>TEL 0997-63-2406 FAX 0997-63-1351</p>
<p>聖徳大学附属中・高校 教頭 竹野昌子 昭和28年卒(高校5回)</p> <p>中野区江原町1-40-3 自宅 TEL 03-3951-8250 勤務先 TEL 047-392-8111</p>	<p>国立音楽大学 教授(独語担当) 内海 晶 昭和27年卒(高校4回)</p> <p>〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-2-9 TEL 03-3851-8544</p>	<p>竹早OBの皆さんの必読の書です 「パロディ主義」 〈怒り〉と〈嘲笑〉の知能指数 マッド・アマノ(天野正之)著 東京都北区上中里1-14-2 TEL 03-3910-3051</p> <p>440ページ 1700円 発売 (株)ビー・エヌ・エヌ 昭和33年卒(高校10回)</p>
<p>友愛婦人会 会長 鳩山安子 昭和15年卒(高女40回)</p> <p>文京区小石川4-16-13 小石川パークタワー406</p>	<p>中国貿易専門商社 誠和貿易株式会社 代表取締役 守岡敬祐 昭和30年卒(高校7回)</p> <p>〒182-0014 本社 東京都立川市柴崎町3-5-21 井上ビル6F</p> <p>TEL 0425-27-7752(代) FAX 0425-27-7805 上海連絡事務所 中国・上海市行閔区七華路3333弄 (萬科城市花園)3区29號402室 TEL・FAX (021)64191998</p>	<p>株式会社 日 東 ☎116-0002 東京都荒川区荒川4-33-2</p> <p>☎03(3802)4521 吉川 凱江 昭和19年(高女44回)</p> <p>☎116-0002 東京都荒川区荒川4-33-2 ☎03(3891)2020</p>

モスバーガー・チェーン・メンバー
株式会社ビーアンドエイチ

代表取締役 加藤 佳子
昭和30年卒(高校7回生)

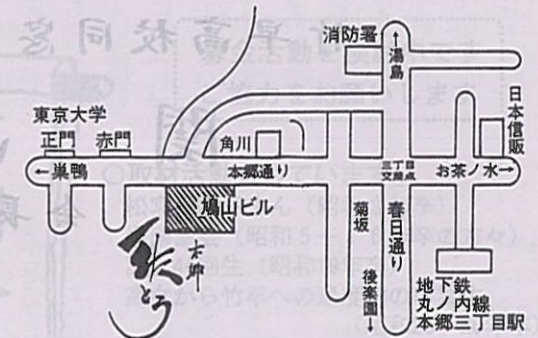
〒560-0893 大阪市豊中市宝山町19-26
TEL/FAX 06-853-6255

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
モスバーガー新金岡店 (大阪府堺市)
モスバーガー京橋店 (都島区東野田区)
モスバーガー今福店 (大阪府城東区)

魚の好きな人の店 座敷、テーブル

本郷 佐と

昼:11時半~1時45分 夜:5時~10時(休日:日曜・祝日)
〒113 東京都文京区本郷5丁目2番12号 鳩山ビル地1階
電話 03(3816)3224



デザイン 編集 データ処理
フィルム出力 総合印刷

株式会社 東京プリント印刷

代表取締役 金森延武
(昭和28年卒・高校5回生)

〒112-0002 東京都文京区小石川5-31-8
TEL.03-3811-3314(代) FAX.03-3811-3319

●新聞・雑誌広告代理店(宣伝・企画・立案)
●デザイン・編集・印刷
●日本陰陽暦日対照表出版発売元

株式会社 ニッポ

〒113-0022 東京都文京区千駄木3-22-11-623
TEL 03-3821-0210 FAX 03-3823-0064
E-mail ID: XLB07035@nifty-serve.or.jp
角掛 隆(旧姓長岡) 角掛昌枝(旧姓三部) 高校10回生・昭和33年卒

自費出版をしたい方
一冊から出版出来ます。
す。ご相談下さい。

『アド・アイランド』

企画・デザイン・版下・DTP
〒461-0023
名古屋市東区徳川町1008-301

TEL.052-933-5105
FAX.052-933-5107

城島公子(旧姓 津崎)
昭和31年卒(高校8回)

浦 焼
創業明治28年
石 橋 亭

根本 轟 祐
昭和31年卒(高校8回)
〒113-0033
東京都文京区本郷3-24-3
電話03-3811-3612

上州高崎観音山の名勝
洞窟観音と
日本庭園

高崎駅より車で10分
荒井夏美(旧姓 山田)
昭和31年卒(高校8回)
TEL. 027-322-5025
027-323-3766

石川 理子
石附 雅子
内田 篤子
金成 絢子
河瀬 敏子
小島 昌子
小林 奎子
桜井 吉子
清水 敬之
鈴木 伸太郎
須藤 彰久
谷田 実翠
塚本 直明
辻本 直明
津田 明子

我が母校・竹早高校も
創立百周年(2000年)を
迎えようとしています。
簗会の飛躍的發展を
祈って居ります
平成10年度簗会の
担当幹事は昭和31年卒
(高校8回)の私達です。

富塚 穂子
永井 たか子
中村 英子
中村 暎子
野口 雅弘
野寺 武子
林 道子
原田 昌子
引地 芳恵子
平岩 宏子
福本 信子
本間 宏子
室田 容子
山中 慶子
山森 淑恵

内海総合設計

(一般建築士事務所)
〒460-0008
名古屋市中区栄1-22-16
ミナミ栄ビル508号
TEL.052-203-1285
FAX.052-203-1285
内海美知子(旧姓渡辺)
昭和31年卒(高校8回)

FLAG. MDN. MOTOKI
INJECTION NEEDLES



旗印本木注射針

本木 光子(旧姓小島)
昭和31年卒(高校8回)

〒114-0015
東京都北区中里3-22-10
TEL / FAX 03-3917-0573

毎度有難うございます
牛豚肉



株式会社 日高精肉店

文京区小石川3-26-22
(3811)4330

池袋東口 三越裏

手打うどん
「友美津」 月曜定休日

昼11:30~3:00 夜5:00~10:00

Tomomitu Part2

B-1 月曜定休日

pm5:00~Am1:00

TEL 03(3985)8768 3828

吉田勝世(旧姓 友光) 昭和31年卒(高校8回)



豊島区東池袋1-9-7



淡野製菓

山内昭子(旧姓 伊藤) 昭和31年卒(高校8回)

〒170-0013 豊島区東池袋1-8-6(池袋三越裏)

TEL 03(3971)4095 03(3981)1241

定休日: 日曜日 祭日

榊原鉄工株式会社

専務取締役 榊原 禧之

昭和31年卒(高校8回)

埼玉県川口市並木元町3番2号

TEL. 048-251-4564 FAX. 048-255-2136

日高ビル

(貸し事務所、店舗)

〒112-0002
東京都文京区小石川1-23-2

TEL 03-3811-3928

東京海上火災保険(株)
東京海上あんしん生命(株)

代理店

秋山保険サービス

秋山悦子(旧姓 山岡)

昭和31年卒(高校8回)

〒465-0083

名古屋市名東区神丘2-15メゾン神丘7-15

TEL & FAX 052-703-1729

小林整形外科

小林 浩

昭和31年卒(高校8回)

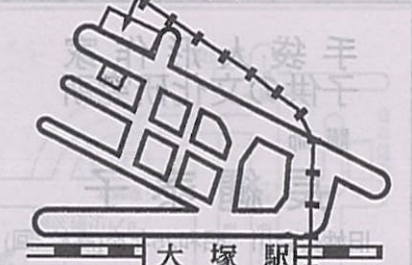
〒170-0004

東京都豊島区北大塚2-17-12

TEL 03-3918-4074

0383-9383

よしや



至池袋 大塚駅 至東京

(大塚駅北口より徒歩 2分)

子どもの食事研究所

寺田 雅子(旧姓 村井)
昭和31年卒(高校8回)

〒156-0052 世田谷区経堂5-6-2
TEL 03-3427-5077 (FAX兼用)

本 乳幼児の食事

(子どもはどのように食べることを学ぶのか)
健康料理の本
(小児成人病を予防するために)

オリジナル食器具 皿・スプーン

楽しい水泳教室 高杉会

高井戸地域区民センター温水プール
(井の頭線高井戸駅下車2分)

...電車からプールが見えます...

毎週木曜日 19:00~21:00

会員 男女年齢不問

問い合わせ先

芝井 靖子

昭和31年卒(高校8回)

〒168-0082 杉並区久我山5-29-12

TEL&FAX(03)3334-9226